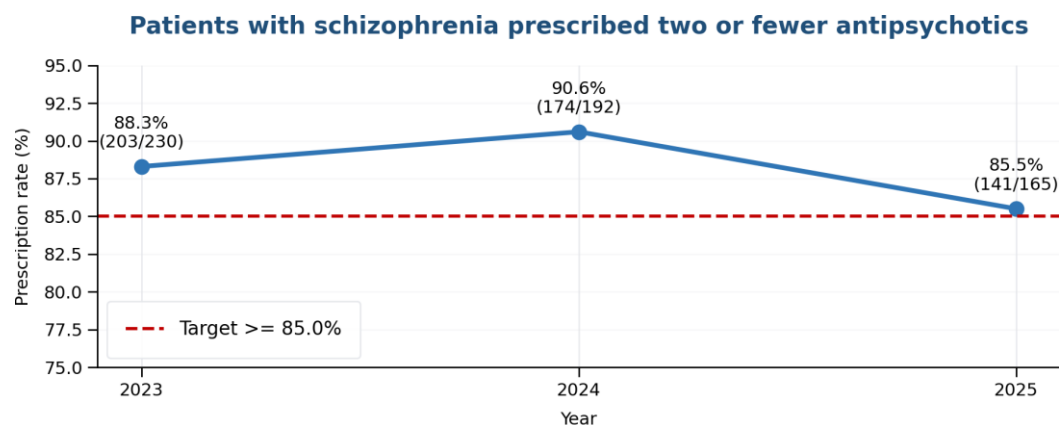


# 統合失調症患者における抗精神病薬 2 種類以下の処方率

独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター | 2023～2025 年

年度別実績

| 年    | 分母  | 分子  | 処方率   |
|------|-----|-----|-------|
| 2023 | 230 | 203 | 88.3% |
| 2024 | 192 | 174 | 90.6% |
| 2025 | 165 | 141 | 85.5% |



## 評価

2025 年は 85.5%（141 人／165 人）で、2024 年より 5.1 ポイント低下したものの、目標値 85%以上を維持している。

## 指標の解釈

3 年間を通じて目標値を達成している。一方、2025 年は目標値に近接しており、処方状況の継続的な確認が必要である。

総括：3 年間を通じて目標を達成している。適正な薬物療法を維持するため、処方内容と臨床的必要性を継続的に評価する。

評価と質改善への活用

| 観点     | 内容                                                              |
|--------|-----------------------------------------------------------------|
| 指標の把握  | 2023 年 88.3%、2024 年 90.6%、2025 年 85.5%と、3 年間すべて目標 85%以上を達成している。 |
| 現状評価   | 2025 年は前年より低下したが、目標値を 0.5 ポイント上回っている。                           |
| 臨床的評価  | 薬剤数のみでなく、症状、治療反応、副作用、服薬状況、クロザピン適応等を踏まえて処方の妥当性を確認する。             |
| プロセス評価 | 多剤処方例について、処方理由、減量・整理の可能性、継続理由が診療録上確認できるかを評価する。                  |
| 継続評価   | 分母・分子・率に加え、病棟別、主治医別、入外別等の処方状況を必要に応じて確認する。                       |

今後の重点的な確認項目

| 項目         | 確認内容                                    |
|------------|-----------------------------------------|
| 多剤処方例の確認   | 3 剤以上処方例について、臨床的必要性、併用期間、過去の減薬経過等を確認する。 |
| 処方レビュー     | 医師・薬剤師を中心に、効果、副作用、相互作用、服薬負担を評価する。       |
| クロザピン適応の検討 | 治療抵抗性が疑われる症例では、クロザピンを含む治療選択肢を検討する。      |
| 標準化        | 診療ガイドライン等を参照し、処方見直しの機会と確認方法を共有する。       |
| 再測定        | 年度ごとの推移を確認し、目標達成状況と未達要因を継続評価する。         |

## 質改善サイクル

指標の確認 → 多剤処方例の把握 → 臨床的妥当性の検討 → 処方レビュー → 再測定 → 標準化・見直し

### 参考資料

- 国立病院機構「臨床評価指標について」
- 日本医療機能評価機構「機能種別と評価項目」